



■ 今月のコロナは

子供たちの夏休みも終わり、2学期の学びの場がスタートしました。行動制限のない夏休み期間中、多くの人々が国内はもとより、海外へと出かけたようでした。

しかし、この夏、毎日のように「日本のコロナ感染者が世界最多」と報道されていました。

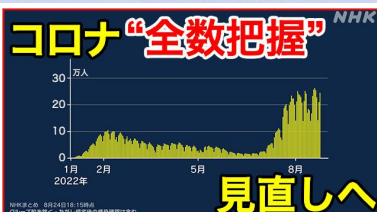
かつて、アメリカやヨーロッパ諸国が爆発的感染者数を示しながらも日本国内ではそこまでは増えず、よその国の話～的に受け止めていたのに、一気に自分の身に襲いかかってきた感があります。

諸外国ではすでに多くの感染者が発生し、国民に免疫ができたからとか、あまりにも多すぎて一部の国では感染者のカウントをやめたから、といった言い訳もあったようです。

現在少しは収まったとはいえ、連日20万人を超す感染者が出ていたのには驚きでした。



医療機関では感染症法に基づく発生届を毎日データ入力してきたため、感染者の増大と共にその作業に時間がかかり大きな負担となっているとの報道がありました。



図引用: NHKニュース

そこで国は新規感染者の全数把握の見直しを行うと発表しました。しかしこれには同調できないという反応も多くあるようです。

国内の感染者管理や海外からの入国者枠拡大といった水際対策が緩和されていく中、またまたオミクロン変異株として“ケンタウロス”なる新たな強敵が現れているようです。そして第7波が収束しないうちから第8波の恐れが懸念されるといった話も出ています。

「一度コロナに感染したのに再感染！…、」という話も聞こえています。真夏の暑さも少しは収まりこれからの季節は屋外で活発に行動したいところです。「コロナ予防三原則」を守って毎日を元気に過ごしていきましょう。

■ 活動報告 8月23日「Online 会合」

今回は世界の海にあふれる数々の船舶の往来を眺めてみました。



貨物船やタンカーが大海を渡り、狭い海峡を挟んで列をなす様子を見ると、国際間での物資の動きがいかに莫大なものであるのかと感じます。この流れが疎外されたら人々の生活はどうなるでしょうか。緊張感が高まる現在の世界の中で、日々飛び込むニュースのいくつかをピックアップして、その時の船の動きを確認しました。 <http://jvc-senior.com/20220823onlinev3.pdf> 参照

■ トピックス「白河の関越え」

今年の夏、甲子園で繰り広げられた高校野球は仙台育英高校が優勝し、**深紅の大優勝旗**が初めて白河の関を越え東北の地に運ばれることになりました。

過去何回か決勝に進みながらも最後の勝利をつかみ取ることができず、甲子園での優勝は東北の人たちの悲願だったといわれていました。

優勝が決まった瞬間、地元仙台では号外が配られ、優勝チームのメンバーが地元で凱旋した時は仙台駅前に多くの出迎えが集まっていたとのこと。

白河の関跡近くに建つ白河神社では、毎年甲子園出場が決まった東北6県の高校チームに優勝旗の持ち帰りを祈念して白河の関「通行手形」を渡していたとのこと。今回ようやくその願いがかなったこととなります。優勝旗が東北に運ばれた以降、連日多くの人たちが白河神社を訪れ、御朱印をいただいているとの報道がありました。



図引用：産経ニュース

ところで白河の関と言えば、平安時代の有名な句「都をば 霞とともに立ちしかど 秋風ぞふく 白河の関」があります。しかし作者の能因法師はその時点で白河の関には訪れていなかったとのこと。

都で歌人として作句に励んでいた能因法師は、はるかかなたの東北の地を想いこの句を詠んだとのこと。実際に自分がその地を旅してきたように振舞うためしばらく身を隠して、日焼けした顔で現れたという逸話まで残っていますが、都からの距離を考えると相当長い時間隠れていたのでしょう。

現代人にしてみれば、一度は訪れてみたい遠いあこがれの海外旅行を想い一句、という所でしょうか。

財布との相談が先ですが、思い立ったら世界の果てまで行ける現在、高校野球での全国制覇は東北の人たちにとって容易に果たすことのできない大偉業だったと言えるでしょう。

仙台育英高校の快挙に東北の人たちの喜びの様子がテレビの画面にあふれていました。

■ トピックス「箱根の関越え」

引き続き高校野球の話となりますが・・・

春の選抜高校野球で**紫紺の優勝旗**が初めて箱根を越えたのは、1957年(昭和32年)4月です。

第29回選抜高校野球大会で王選手擁する早稲田実業が優勝し、東京駅前から凱旋パレードが行われました。何事にも“初”には意義があるものです。「箱根越え」がニュースタイトルとなっていました。

夏の大会では1916年(大正5年)の第2回大会で慶応普通部(旧制中学)、1949年(昭和24年)第31回大会で神奈川湘南高校が優勝し、すでに優勝旗は「箱根越え」をしていたこととなります。

更に、ネット上には次のようなものであります。

■ 天下分け目の「不和の関」越え 図：岐阜新聞web



トータルでは西高東低だが近年は東も頑張っている。

■ 超小型衛星“OMOTENASHI”

米国NASAは2025年の有人月面探査計画を遂行しようとしています。8月29日にまず第1段階の無人飛行試験が予定されていましたが、あいにく当日のロケット打ち上げは延期となりました。このロケットにはこれからの宇宙探査計画に資する実験を行う10個の超小型衛星が積み込まれています。

その一つがJAXAのOMOTENASHIです。月面へのセミハードランディング(半分衝突状態)の実証をするとともに宇宙放射線の計測もする予定です。

衛星のサイズは10x20x30cmで、計測機器や逆噴射ロケットなど納めています。超小型化技術を得意とする日本の技の見せ所です。成功を祈りましょう。

■ 事務局から

コロナ禍が収まりません。例年10月開催の総会や具体的な計画はこのコロナの状況を見極めながらご案内していきます。

Online会合は毎月開催ですが参加者の顔ぶれが定着しています。報告はHPに記載していますのでご覧ください。そして新たな参加者を期待しています。

事務局長 田代 周